

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスパークス		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 7日		2025年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日		2025年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2025年5月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	違った資格をもつ職員を配置することで、介護、教育など色々な視点から子どもの支援にあたることが出来ている。	保育士・介護福祉士・強度行動障害研修などの資格については法人として積極的に受験をサポートしている。	研修等で得た知識を事業所全体に還元できるような場を設定し、支援に対して事業所全体のレベルアップを図れるようにする。
2	様々な園、学校、学年の児童、生徒が集まる環境で活動、交流してもらうことで学校生活とは違った楽しみや刺激を感じることができる。	全体での活動プログラムや小集団での活動プログラム、個別のプログラムを用意し、状況やそれぞれの児童に合わせて取り入れている。個々に合わせたプログラムや保護者様の要望をもとに活動を行っている。	既存のプログラムとは別で専門的支援の時間を充実させることにより達成感を感じたり自己肯定感を高めたりすることに繋げ、それぞれの生活がより充実したものになるように取り組む。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	全体での意見交換の場や支援や活動に関する内容の話し合いをする時間を設定しているが、共有しきれていないところが出て、認識のずれが生じる場合がある。	常勤職員がメインとなるミーティングの場はあるが、全体で話ができる機会が少なく、資料等の準備はしているものの情報が不十分なまま支援に入ることがある。	月に一度の職員会議以外にも、ミーティングの時間を増やし支援についてや活動の流れについての情報共有をする。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日 2025年5月20日					
児童デイサービスパークス		利用児童数		2025年3月1日時点 19		回収数 11	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	1				
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	11					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	1				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	11					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	11					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	3	4		4		放課後連絡会主催の放デイの交流イベントや当事業所グループ内の放デイの児童との交流会を検討する。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	11					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7				4	
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	11					些細な事でもお伝えするようにしています。事前に伝える事で子どもの気持ちに寄り添ってもらえるので、心が安定して穏やかに過ごせています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	4	2		5		保護者様との交流が現状、半年に一度の面談のみとなっているため、ご家族様参加型のイベントや保護者様同士が交流できる場の提供を今後検討していく。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10				1		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	11				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10			1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	11				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	11				とても楽しみにしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービスパークス		公表日		2025年 5月 20日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	2	戸建て住宅を活用しているため、全体活動の場とクールダウンや個別支援が必要な場合などで部屋を分けることが出来ている。	リビングを全体活動の場としているが、車いす・バギー使用児が多い時にはスペースが手狭になるため、部屋を分けるなどの工夫が必要となる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	2	教諭や保育士・介護福祉士等を配置している。配置数は基準よりも多く配置している。保育士・介護福祉士・強度行動障害研修等の資格については法人として積極的に受験をサポートしている。あい・さかいサポートリーダー1名	OTやSTなどの専門職については配置なし。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	5	職員同士の配置や意識によって注意を行っている。	バリアフリーとなっているが、車いすの児童が多く、部屋数も分かれるため、危険箇所や死角は発生する。カメラ等を導入し見守り体制の強化を図る。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	2	運営開始から約10年が経ち、経年劣化等の部分もあるが清掃や修繕等を行い、改善に努めている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	1	戸建て住宅を活用しているため、全体活動の場とクールダウンや個別支援が必要な場合などで部屋を分けることが出来ている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	1		振り返りについての機会を設けているが、改善の余地あり。共有の方法やシフト等の時間を改善していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	0	毎年の保護者へアンケートをもとに、改善策等をフィードバックしている。面談時にも不安や要望などを聞き、スタッフ間で共有している。スタッフに対して同じように行っている。	事業所としての改善だけでなくスタッフの働きやすい職場作りが児童への支援の向上になると考えている
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	2	職員会議やミーティング等の時間を利用出来ている。	振り返る時間がまだまだ少ない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	13		第三者による評価は行ってない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	1	毎月の職員会議に研修を盛り込んだり、個別に外部研修へ参加する機会を作っている。	外部研修の成果を公表する場を設けるなどし、情報の共有ができる機会を増やし、事業所全体が知識量を増やせるようにしたい。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	13	0		利用している児童のニーズも考慮しながら、こどもの成長に合わせて、必要に応じてプログラムの更新を行う。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	13	0	保護者との面談を年2回以上実施。そのほかにも送迎のタイミングや電話等で要望があれば計画や支援、過ごし方について、気軽に相談ができるようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	13	0	個別支援計画作成前に保護者様のニーズと指導員の思いを合わせ、より良い計画の作成が出来るように会議等を実施している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11	2	まず保護者と共有を行い、家庭と事業所との方針をすり合わせたものを共有し支援を行っている。	計画や支援方針の共有はしているが、さらに見える化を進め、職員間で支援の差がなくなるように努める
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	7	職員間ではパソコンやスマホを使用し、記録等を行い、情報共有を行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12	1	個別や小集団での活動を主に、人とのかわりをあげられるような支援を目指している。	事業所周辺の清掃活動を定期化したり、地域のスーパーや図書館等の市の施設を積極的に活用していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	0	常勤職員が中心となって立案し、準備等は非常勤職員と協力することができている。	非常勤職員を交え色々な視点から立案を検討したい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	0	常勤職員が主となり立案している。	非常勤職員も交え立案していきたい。

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	13	0	全体での活動プログラムや個別のプログラムを用意し、状況や児童に合わせて取り入れている。個々に合わせたプログラムや保護者様の要望をもとに活動を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	4		不十分な時もあると感じられるため、もう少し時間設定を増やしていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	8	平日の午前中や児童帰宅後に、スタッフ間で昨日、本日の出来事や、支援の内容について意見を交わしている。社員・非常勤全員参加の会議は月に1回定期的に行っており、不安や気になることなど各スタッフからの意見を取り入れている。	記録等で当日勤務していなかったスタッフにも情報が共有できるようにしているが、漏れないように引継ぎを行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	0	利用時の様子を毎日個別に取っており、その日居合わせなかったスタッフも把握できるようにしている。その日の児童の様子を詳細に記録することで課題や変化を確認しやすくしている。その時の背景や会話なども記録することでモニタリング面談や次の支援計画にも活用しやすい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	0	半年に一度以上面談を行っており、変化や課題などゆくり話す場を設けている。その際に色々な意見や要望も聞き、計画だけでなく日々の生活についても話し合っている。日々の活動の記録を写真や動画で見せられることによりわかりやすく活動の内容を伝えることが出来る。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	13	0	支援プログラムに取り入れることで網羅することができている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13	0	児童の力に合わせて、シチュエーションを設定し実施できている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	13	0	相談支援事業所を中心とし、色々な関係機関に声を掛けて頂き、実施することができている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	4	保育、教育機関とは顔を合わせることも多いため、連携が回りやすい	医療機関と直接やりとりする機会は少なく、保護者様より情報をいただくケースが現状は多い。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	13	0	各学校の設定するルールのもと、情報の共有等を行えている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10	3	園や学校とも連携を取りながら引継ぎを行っている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13	0	卒業後の進路が同グループ内の事業所である場合には情報共有の時間を作り、引継ぎ等を行なっている。	その他の進路先となると、保護者様を介しての情報共有となることが多い。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	3	支援の内容や取り組みなどについて情報交換を行っている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	13		今年度は機会を設けることができなかった。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	13	0	放課後連絡会や放課後連絡会の区域会に参加している。	（自立支援）協議会への参加は出来ない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	0	連絡帳に日々の様子を記載し、送迎時にも出来事や特記事項を伝えるようにしている。送迎時には支援にあたったスタッフが持っているため、その時の背景や児童の気持ちなど詳しく伝えることが出来ると思う。送迎時には連絡帳に記載した内容以外のことを伝えられるように心掛けている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	0	個別の相談を行っている。一緒に方法を考え、家庭や事業所で支援を実践し情報共有を行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	13	0	見学時や契約時に説明している。金額等に変更があった際には書面に交付している。支援の内容などについては日々の送迎や電話連絡で保護者の意見ももらいながら行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	4	モニタリング面談にて、意見交換等をおこなっている。	こども自身の意思を汲むことが難しい場合がある。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	13	0	モニタリング面談にて頂いたご意見をもとに計画作成を行うことを心掛けている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	13	0	送迎時や連絡帳、電話・LINE等様々な連絡手段を活用し保護者の不安を取り除く支援を目指している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	13		保護者様との交流が現状、半年に一度の面談のみとなっているため、ご家族様参加型のイベントや保護者様同士が交流できる場の提供を今後検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	0	体制はあり、対応については可。	潜在的なリスクや苦情以前のニーズ、本音や悩みを察知してケアしていけるが今後の課題。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	13	0	毎月発行している。保護者だけでなく、児童も楽しみにしてくれている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	13	0	個人情報使用同意書を契約時に説明し署名をいただいている。スタッフについても採用時研修を行い、個人情報について誓約書を書いている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	13	0	言葉や絵カード、あいうえお表などコミュニケーションの手段を取り入れるとともに、相手の気持ちを読み取ろうとする意識を心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	13	地域住民との交流はあるが、事業所へ招待等については出来ていない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	2	マニュアルはあるが、書かれている内容だけでなく児童や緊急時の状況に合わせて応用できるようにスタッフ間で共通認識を持てるように普段から心掛けている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	0	避難訓練は児童のいる時間帯に行っており、不審者対策や火事・地震など発生時の状況を変えながら訓練を行っている。不測の事態でも対応できるように「●●の場合」「■■■の場合」等様々な状況を想定した避難計画案を作成し、訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	13	0	アセスメント時に情報をいただいている。毎年4月頃を目途に、アセスメントの更新を行う。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	0	保護者や医療機関の指示をもらい、従業員に周知徹底するとともに誤提供とならないように工夫をしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	13	0	研修・訓練以外の機会でも取り上げ周知を図るようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	13	0	重要事項説明書に記載し確認を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13	0	ヒヤリハットなどに該当する事案はスタッフ間で共有し、再発防止に向けて改善策や対応の方法について話し合いの場を設けている。日頃から小さいことだが気になることを社内のツールを用いて共有し、情報の確認漏れがないよう気を付けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13	0	研修には社員だけでなく非常勤スタッフにも出席してもらい、内容を社内で共有できるように話し合いや回覧を行っている。障がい・特性の理解の部分では、各スタッフで知識の差があるので社内の研修の機会や職員会議の際に話し合っている。介助研修では、実際に介助される役にもなり受ける側の気持ちを知り、細やかな配慮が出来ることを目指している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	13	0	該当する可能性がある児童に対しては、保護者にもしも"身体拘束となった場合"の手順を説明し、確認をもらっている。現在は該当者がいないので身体拘束を行う必要がた場合には、会議を行い改善策等の提示をしていきたい。準いすのベルト等の身体固定具を使用する児童に対しては別途保護者に確認をもらっている。		